

けーえすけーびーつうかん      ごう      ねん がつ にち はっごう  
K S K P 通巻12300号      2022年9月15日 発行

とくていひ えいりかつどうほうじん      かぜききんじむきょく  
特定非営利活動法人 ゆめ風基金事務局

ゆうびん      おおさかしひがしよどがわくひがしなかじま  
(〒 533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106) TEL06-6324-7702

## ゆめごよみ風だより 100号

INDEX(もくじ)

- ゆめごよみ 100号読者、原稿を寄せてくださった方、支えてくださった方々に心からの感謝を
- ゆめ風基金のあゆみ-届けた救援金
- 卓上コンロ4個と2台のバイク
- 100号記念座談会(前編)
- 応援団からこんにちは!vol.3
- リレー・エッセイ 災害と障害者 第73回
- カンパをいただいた団体/事務局の動き
- 会計報告・別紙
- 各地からの風だより

## 巻頭言

ゆめごよみ 100号 読者、原稿を寄せてくださった方

支えてくださった方々に心からの感謝を

理事 橘高 千秋

私は1997年から2018年までの21年間、事務局員として編集業務を担当させていただいた。会員の方

に「これはぜひともお伝えしたい」、「この記事はどのように受け取ってくださるだろうか」と、ドキドキしながら

ら編集し発送してきた。到着後に送ってくださる振り込み用紙の一言一言にどれほど胸を熱くしただろう

か。締め切り前の夜遅くの作業も苦ではなかった。会員の方々と心がつながっているという信頼が支えだつた。

## 被災障害者救援活動からの情報発信がいのち

私は、阪神淡路大震災直後に関西の障害者団体が結集して発足した障害者救援本部専従者として2年間を経て、ゆめ風基金事務局員となった。

阪神淡路大震災の救援活動にかかわる中で「これが経済大国と言われる日本の現実か？」と幾度も息を呑んだ。避難所で被災者が体調を崩し次々と亡くなる中、瓦礫に埋もれた市民が多数おられる時期に、「千載一遇の機会」とばかりに市の幹部たちによって再開発の検討が始まっていたことを知り、人間の貌をもため行政のありように恐怖をおぼえた。吹きさらしの体育館の廊下で避難生活を送る障害者、高齢者。復興から取り残される人々。「これは人間の国か？」、被災者小田実さん(作家、故人)の言葉だ。

16年後に起きた東日本大震災においても、地震、津波、原発災害から辛くも助かった人々が、厳しい避難生活の中、体調を崩して亡くなる災害関連死は自殺を含め3789人(2022年3月31日復興庁調べ)にのぼった。中でも福島県では、関連死2333人(同上)と、直接死1614人(2022年3月9日警察庁発表)を大きく上回った。そして発災時の障害者の死亡率が2倍だという調査結果も明らかになった。(2012年9月NHK調べ)

市民の生命と人権を最優先に守れないこの国のありように震撼しながらも、少しでも救援活動現場に近い場所から事実を伝えることがゆめごよみの仕事だと心する日々だった。

## 「災害も戦争も障害者は真っ先に犠牲になります」

ゆめごよみの連載企画「災害と障害者」は第20号(2002年10月26日発行)から始まった。1回目の著者はゆめ風基金発起人であり、著名な翻訳家、障害当事者の故二日市安さん。「1945年7月9日夜の『災害』」と題して、17歳の時、米軍カーチス・ルメイ指揮の空襲で西宮の自宅一帯が全焼した体験を怜悧

な筆致で書いてくださった。後段「ひとつの国土を焼き払っておきながら、その国土の代表者から勲章を授けられたのは、おそらく世界の歴史上このルメイぐらいのものだろう。わたしたちの家はこのルメイの指揮するボーイング B 2 9 の投下した焼夷弾によってきれいに焼き払われた」の文に改めて衝撃を受ける。

二日市さんは、阪神淡路大震災が起きた際、障害者救援本部リーフレットにいち早く文を寄せられている。「災害や戦争のときは、障害者は真っ先に犠牲になります。そのところ、よろしく願います」と。

### 障害当事者と支援者が力を合わせて友を救おう—杉本章さんの詩より

ゆめごよみ 29号(2005年5月26日発行)に、呼びかけ人である杉本章さんが発足10年を機に永六輔さんへの感謝をこめて書かれた詩が掲載された。心に風を起す詩を改めてご紹介したい。「人間にはまごころがある」に今も力をいただく。

たたえる ゆめ かぜ えい ろくすけ さんにささげます  
讃 夢・風 永 六 輔 大 人

ゆめはこころをかよわせかぜはばんしょうをはぐくむ  
夢 治 心 風 育 万 象

ほしやあいよりて ほうゆうをすくわん  
輔 車 相 依 救 朋 友

りくだいは じんちおよぼすといえども  
六 大 雖 人 智 不 及

ながらく よのじんぞくになさけあるをつたえん  
永 傳 世 人 俗 有 情

訳/ 夢は人の心をかよわせ、風は万物を育てる。(そのように)障害当事者と支援者がお互いに力を合わせて友を救おう。自然の力は人智の及ぶところではないが、(ゆめ風基金の運動によって)永く世の人に、人間にはまごころがあるということを伝えたい。

## ゆめ風基金のあゆみ

【ゆめ風基金】のモットー＝「被災した障害者に直接届ける」

これまでの救援金(救援活動費総額) 5億7475万2025円(2022.6月末現在)

ただいまの基金残高 3億1245万0712円(2022.6月末現在)

## お届けした救援金

2022年 福島県沖地震 733,300円

指定寄付 10万円

東日本大震災 22万5,000円

2021年 東日本大震災 465万800円

2020年7月豪雨 280万2千円

2021年8月の前線に伴う大雨 300万円

2020年 台風19号 231万9717円

台風15号 179万4千299円

東日本大震災 830万円

2018年台風21号 500万円

2020年7月豪雨 288万6175円

新型コロナ 32万円

災害時移動送迎支援活動 10万円

2019年 大阪北部地震 561万8928円

西日本豪雨 51万4745円

北海道地震 106万9637円

東日本大震災 130万円

台風19号 464万3605円

台風15号 159万648円

2019年8月の前線に伴う大雨 695万円

2018年 <sup>ねん</sup> 島根地震 <sup>しまねじしん</sup> 5万円 <sup>まんえん</sup>

西日本豪雨 <sup>にしにほんごうう</sup> 4464万 <sup>まん</sup> 9350円 <sup>えん</sup>

大阪北部地震 <sup>おおさかほくぶじしん</sup> 964万 <sup>まん</sup> 8円 <sup>えん</sup>

台風21号 <sup>たいふうごう</sup> 3万 <sup>まん</sup> 8988円 <sup>えん</sup>

熊本地震 <sup>くまもとじしん</sup> 730万円 <sup>まんえん</sup>

北海道地震 <sup>ほっかいどうじしん</sup> 180万 <sup>まん</sup> 7608円 <sup>えん</sup>

東日本大震災 <sup>ひがしにほんだいいしんさい</sup> 910万 <sup>まん</sup> 2085円 <sup>えん</sup>

災害時移動送迎支援活動 <sup>さいがいじいどうそうげいしえんかつどう</sup> 2万円 <sup>まんえん</sup>

2017年 <sup>ねん</sup> 熊本地震 <sup>くまもとじしん</sup> 4823万 <sup>まん</sup> 3587円 <sup>えん</sup>

東日本大震災 <sup>ひがしにほんだいいしんさい</sup> 750万円 <sup>まんえん</sup>

災害時移動送迎支援活動 <sup>さいがいじいどうそうげいしえんかつどう</sup> 5万円 <sup>まんえん</sup>

2016年 <sup>ねん</sup> 熊本地震 <sup>くまもとじしん</sup> 4823万 <sup>まん</sup> 3587円 <sup>えん</sup>

東日本大震災 <sup>ひがしにほんだいいしんさい</sup> 1億4121万円 <sup>おくまんえん</sup>

災害時移動送迎支援活動 <sup>さいがいじいどうそうげいしえんかつどう</sup> 22万円 <sup>まんえん</sup>

2015年 <sup>ねん</sup> フィリピン台風 <sup>ふいりびんたいふう</sup> 112万 <sup>まん</sup> 5000円 <sup>えん</sup>

常総市水害被害 <sup>じょうそうしすいがいひがい</sup> 20万円 <sup>にじゅうまんえん</sup>

ネパール地震 <sup>ねばーるじしん</sup> 100万円 <sup>まんえん</sup>

東日本大震災 <sup>ひがしにほんだいいしんさい</sup> 3390万円 <sup>まんえん</sup>

2014年 <sup>ねん</sup> 東日本大震災 <sup>ひがしにほんだいいしんさい</sup> 1017万 <sup>まん</sup> 9080円 <sup>えん</sup>

災害時移動送迎支援活動 <sup>さいがいじいどうそうげいしえんかつどう</sup> 500万円 <sup>まんえん</sup>

2013年 <sup>ねん</sup> 島根・山口大雨被害 <sup>しまねやまぐちおおあめひがい</sup> 50万円 <sup>まんえん</sup>

東日本大震災 <sup>ひがしにほんだいいしんさい</sup> 7142万 <sup>まん</sup> 7520円 <sup>えん</sup>

2012年 <sup>ねん</sup> フィリピン台風 <sup>ふいりびんたいふう</sup> 96万 <sup>まん</sup> 8125円 <sup>えん</sup>

ひがしにほんだいしんさい  
東日本大震災 7263万6489円

ねん たいふう ごう まん えん  
2011年 台風12号 242万828円

ひがしにほんだいしんさい おく まん えん  
東日本大震災 1億1489万9050円

ねん はいちじしん まんえん  
2010年 ハイチ地震 100万円

にせんくねん たいふうきゆうごう まんえん  
2009年 台風9号 35万円

ふいりびんたいふう まんえん  
フィリピン台風 50万円

ねん ちゅうごくしせんおおじしん まんえん  
2008年 中国四川大地震 24万円

いわてけんみやぎないりくじしん まんえん  
岩手県宮城内陸地震 30万円

みゃんまーさいくろん まんえん  
ミャンマーサイクロン 150万円

ねん のとじしん まんえん  
2007年 能登地震 50万円

にいがたちゅうえつおきじしん まん えん  
新潟中越沖地震 195万5000円

ねん ばきすたんじしん まんえん  
2006年 パキスタン地震 25万円

ねん にいがたちゅうえつじしん まんえん  
2005年 新潟中越地震 310万円

ふくおかおきじしん まん えん  
福岡沖地震 81万4000円

みやざきたいふう まんえん  
宮崎台風 200万円

ねん いらんじしん まんえん  
2004年 イラン地震 43万円

にいがたちゅうえつじしん まん えん  
新潟中越地震 51万9263円

たいふう ごう まん えん  
台風23号 455万5000円

ねん とうかいしゅうちゅうごう まんえん  
2003年 東海集中豪雨 100万円

はんしんあわじだいしんさい まんえん  
阪神淡路大震災 300万円

あふがにすたんじしん まんえん  
アフガニスタン地震 10万円

とかちおきじしん まん えん  
十勝沖地震 15万6973円

ねん はんしんあわじだいしんさい まんえん  
2002年 阪神淡路大震災 300万円

あふがにすたんじしん アフガニスタン地震	まんえん 10万円
かんこくたいふう 韓国台風	まんえん 50万円
ねん える さる ばどる じしん 2001年 エルサルバドル地震	まんえん 110万円
とっとりじしん 鳥取地震	まんえん 60万円
いんどおおじしん インド大地震	まんえん 120万円
はんしんあわじだいしんさい 阪神淡路大震災	まんえん 225万円
にせんねん うすざん ぶんか 2000年 有珠山噴火	まんえん 145万円
とる こひさいしょうがいじ いりょうかつどう トルコ被災障害児の医療活動	まんえん 50万円
とうかいしゅうちゅうごう 東海集中豪雨	まんえん 290万円
ねん とる こせいぶおおじしん 1999年 トルコ西部大地震	まんえん 110万円
たいわんおおじしん 台湾大地震	まんえん 200万円
ねん きたかんとしゅうちゅうごう 1998年 北関東集中豪雨	まんえん 50万円
ねん はんしんあわじだいしんさい 1995年 阪神淡路大震災	まんえん 100万円

たくじょうこんろよんこにだい ばいく よびかけにんだいひょう こむろ ひとし  
**卓上コンロ4個と2台のバイク 呼びかけ人代表 小室 等**

ねんまえ しがけん おうみ はちまん す ゆうじん と と あさ みち あんび き ゆうじん  
 27年前、滋賀県近江八幡に住む友人は取るものも取りあえず、朝の道を安否が気がかりな友人たち

す こうべ いそ らいふらいん と げんち つ かれ ひ おも きびす かえして  
 の住む神戸に急いだ。ライフラインの止まった現地に着いて、彼は、火だ！と思った。踵を返して

おうみはちまん と かえ たくじょうが す こんろよんこ が すぼんべ ちょうたつ りゅっく はい つ こ あくろ  
 近江八幡に取って返し、卓上ガスコンロ4個とガスボンベを調達、リュックに入るだけ詰め込んで悪路を

ふた た こうべ おれ たくじょうこんろよんこぶん かれ じぶん ひりき じゅっかい こんろ  
 再び神戸に。「俺にできることは卓上コンロ4個分だった」と彼は自分の非力さを述懐した。けどコンロの

ひ あたた た ひと ちから おも  
 火で暖かいものを食べることができた人たちが、どれだけカづけられたことかと思う。

かぜききんしんだいひょうりじ ぎふ す とだじろう ねんまえ せんごうなんばー か  
 ゆめ風基金新代表理事、岐阜に住む戸田二郎さんも 27年前のことを前号N o.99 に書いている。

てれび なが さんじょう おどろ こうべ しょうがいしゃ なかま きゅうえんかつどう いどう ごじゅっしー  
 テレビから流れる惨状に驚いていると、神戸の障害者の仲間たちから、救援活動の移動に50ccの

バイクが必要のSOS。作業所職員の運転する車で戸田さんはバイク2台と救援物資を届け、すぐに岐阜へ戻り街頭募金を始めた。

卓上コンロ4個と2台のバイク、どちらも重さは同じだ。

必要なものを迅速に届ける、これってゆめ風の理念そのもの。

戸田さんは設立された「ゆめ風基金」にネット岐阜としてすぐに参加。

27年の時が経った、今日も、事務局長の八幡 隆司さんは被災地の現場に足を踏み入れているでしょう。前代表理事牧口一二さんと戸田さん、時宜を得た交代。「牧さん、よくやった！」と、副代表だった亡き河野 秀忠さんも天国から言っている。もちろん、牧さんには引き続き理事として、戸田さんを支えていた。だく仕事が残っていますので、お疲れの出ない程度にこれからもよろしくお願ひします。

全国のゆめ風ネットのみなさんと、ゆめ風事務局スタッフのみなさんと、そしてなによりもたくさんのみなさんからの寄付金によって、ゆめ風基金は運営されています。

亡き永六輔さんから上意下達な感じで(笑)、呼びかけ人代表を申し送られましたが、永さんは10年の約束で呼びかけ人代表を退かれた後も、それまでと変わらぬ呼びかけ人振りでありました。今度のロシア・ウクライナ侵攻での戦争被害者に、永さんだったら国籍を問わず手を差し伸べようと言ひ出している気がする。

呼びかけ人の皆さんの、陰日向のサポート、力をいただいています。

ゆめ風基金設立以前から長い間、我々の活動に折にふれ意見を寄せてくださっている呼びかけ人のひとり、山田太一さんが東日本大震災の折にくださっていたコメントに、大事なメッセージが秘められていると感じていたので、改めてここに紹介させていただきます。

《スポーツで勝って、コンサートをひらいて元気を「与える」という人が多くてムカつきます。どうして上から

目線なのでしょうか。与えられたくなんかないよ、自分で輝くよとやってください。山田 太一》

われわれ「ゆめ風基金」が矜持とすべきメッセージと受け止めました。

たいち  
太一さん、ありがとうございました。

それにしても《ゆめごよみ風だより》100号記念、凄いな。

けいぞく ちから かんぱい  
継続は力なりに乾杯！！

こむろひとし しゃしん さつえい さかもと  
(小室等さん写真 撮影・坂本ようこ)

## ごうきねんざだんかい ぜんぺん 100号記念座談会 前編

かぜききん きかんし かぜ ごう むか  
ゆめ風基金の機関紙「ゆめごよみ風だより」が100号を迎えました。

こんかい ほっそく はんしんあわじだいしんさいとうじ し にん はなし うかが  
今回、発足のきっかけとなった阪神淡路大震災当時のことを知る3人にお話を伺っていきます。

にちじ ねんしちがつ にち か  
日時:2022年7月12日(火)

ばしょ もと ひさいちしやうがいしやせんたー  
場所:拓人(たくと)こうべ(元は被災地障害者センター)

さんかしや あわじしましゅつしん じっか ぜんかい しんさいとうじ だいがくせい おおさかす  
参加者: 風 裕之(なぎ ひろゆき)淡路島出身。実家は全壊。震災当時は大学生で大阪住まい。

ねん ひさいちしやうがいしやせんたーすたっふ げんざい こうべしながたく くま じりつせいかつちゅう  
‘96年より被災地障害者センタースタッフ。現在、神戸市長田区にて車いすで自立生活中。

稲本 須磨子(いなもと すまこ)ひろしまけんしゅつしん ねん がつ ひさいちしやうがいしやせんたーのち たくと  
稲本 須磨子(いなもと すまこ)広島県出身。‘95年4月から被災地障害者センター(後に「拓人こうべ」)で

ほらんでいあ ごすたっふ かつどう げんざい かいごじぎやうしよ しよくいん はたら  
ボランティア、その後スタッフとして活動。現在、介護事業所「たくと」職員として働く。

まきぐち いちに ぜん かぜききんだいひやうりじ  
牧口 一二(前ゆめ風基金代表理事)

しかい やはた たかし じむきょくちやう  
司会:八幡 隆司(事務局長)

## たいだんちゆう しゃしん 対談中の写真

やはた なぎ ねが  
八幡:まずなぎさんからお願いします。

なぎ しんさいとうじ がくせい おおさか じっか あわじしま さいがいちよくご れんらく と ぜんかい  
なぎ:震災当時は学生で大阪にいました。実家が淡路島にあって、災害直後に連絡が取れて、あとで全壊

と分かりました。震災支援を始めたのは震災後の2月はじめ。救援本部(※1)に知り合いがいたので。

八幡: 稲本さんは、当時どうしていましたか？

稲本: 大学卒業後も地震当日は研究生として宮崎にいて、午前中に大阪にいた友人から地震のことを聞きました。私の祖母は須磨区に住んでいたのので、テレビを見て、近所の市営住宅が燃えていたり、倒壊するのを見て、「ああこれはあそこだ」と。どうしようかなと思って何日も過ごしましたね。

八幡: なぜ神戸に来ることに？

稲本: 学生の時に、視覚障害者が普通に過ごせる公園の研究をしていました。その関係で、視覚障害の人たちと親しくなっていて、救援本部が全国に発信していた通信も見ました。その「ボランティア募集」を見て連絡すると「2~3 か月来れるなら大歓迎です」ということで、宮崎を引き上げて、広島の実家に荷物置いて、神戸に来たのが4月17日です。

八幡: 牧口さんは当時どうしていましたか？

牧口: 僕は大阪にいて、あの時は徹夜で原稿書いていた。朝、書き終えて寝ようとしたら、その時ぐらっときた。テレビをつけたら地震の報道ばかり。しばらくして「みんなどうしてる？」って思い始めて、大阪では救援本部を作る動きがすでに起こっていて、僕何したらええかなと、いつも一緒に動いていた今は亡き河野秀忠に相談すると、3日か4日経って彼は神戸に行っただんです。着くなり電話をかけてきて、「えらいことになっている。とにかく金集めよう」と。「どのくらい」って聞くと、「10億円」と。僕は今までに見たことのないお金やから、「5億くらいにせえへん？」と値切ってね。後で大笑いしましたね。

八幡: 呼びかけ人はどんなふうを集めたんですか？

牧口: 緊急の金集めやから名の知られた人の力を借りようと、それまでイベントなどでお世話になった人

たちに<sup>かわの ふたり かつた ばし</sup>河野と二人で片っ端から<sup>てがみ か</sup>手紙を書きました。あの時は誰もが<sup>とき だれ なに てつだ</sup>「何か手伝いたい」という<sup>かん</sup>感じで、  
どん<sup>へんじ</sup>返事がきてびっくり。また、有名な人が<sup>ゆうめい ひと おおさか こうえん こ</sup>大阪に講演に<sup>おり</sup>来られた折に、<sup>かわの ふたり がくや たず</sup>河野と二人で楽屋を訪ねて、「ぜ  
ひ、<sup>ちから</sup>お力を！」と頼んだら「<sup>たの</sup>いいよ」という<sup>かん</sup>感じで、<sup>きがる ひ う</sup>わりに気軽に引き受けてくれたんです。

永<sup>えい ろくすけ</sup>六輔さんの<sup>ひと なまえ い</sup>すごいところは「<sup>き</sup>もっといろんな人の名前が要るんだろ」と聞いてくれたんですね。ご  
本人から<sup>ほんにん ちよくせつでんわ</sup>直接電話が<sup>か</sup>かかってくるんです、<sup>かぜ えい き</sup>ゆめ風に。「永さんから聞いた」と。永さんは単に<sup>えい たん なまえ か</sup>名前を貸すだ  
けじゃなくて、<sup>ほんき</sup>本気なんですね。それがもの<sup>ちから</sup>すごく力になりました。

八幡<sup>やはた</sup>：そういう<sup>かたち</sup>形でゆめ風基金は<sup>かぜききん すたーと</sup>スタートしたんですね。<sup>なぎ</sup>凧さんは最初は<sup>さいしょ にしのみや しえん はい</sup>西宮の支援に入っていて、そ  
のあと<sup>こうべ</sup>神戸にきて「<sup>かぜぶろじえくと</sup>ゆめ風プロジェクト」をやっていましたね。どんな<sup>ぶろじえくと</sup>プロジェクトでしたか。

凧<sup>なぎ</sup>：「ゆめ風プロジェクト」は<sup>かぜぶろじえくと しんさい</sup>震災から2～3年経ってから<sup>に さんねん た</sup>だったと思います。当時、<sup>おも</sup>作業所の<sup>とうじ さぎようしょ そんざい わす</sup>存在が忘れら  
れかけた<sup>き</sup>気がしたし、<sup>うんえい きび</sup>どこも運営が厳しい。「それらを<sup>つな じぎょう</sup>繋げる事業をやってみないか」という<sup>はなし</sup>話がありまし  
た。たまたま<sup>ぎゅうにゅうぱ っく りさいくる かつどう</sup>牛乳パックのリサイクル活動をする<sup>ぜんこくしゅうかい こうべ</sup>全国集会を神戸でやるということがあり、「<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者の  
作業所も<sup>さぎようしょ いっしょ</sup>一緒にやらないか」と。作業所の側から「<sup>さぎようしょ がわ</sup>せっかくやから、<sup>ばざー</sup>バザーでもなく、<sup>なさ</sup>お情けじゃなく、<sup>しょうひん</sup>商品  
として<sup>み</sup>見てもらうようなことをやろう」となって、それが<sup>ひんぴょうかい</sup>品評会<sup>かん</sup>みたいな<sup>かん</sup>感じになって、<sup>かいじょう き ひと</sup>会場に来た人に  
作業所の<sup>さぎようしょ しょうひん</sup>商品を見て<sup>み</sup>買って<sup>か</sup>もらう。かなり<sup>う</sup>売れて、<sup>けっかてき</sup>結果的に<sup>さぎようしょ</sup>作業所の<sup>みな</sup>皆さんにも<sup>じしん</sup>自信がついたんですね。

まきぐち<sup>まきぐち</sup> せつとしょうひん  
牧口：それが「セット商品」だったよね。

凧<sup>なぎ</sup>：そうです。いろんな<sup>さぎようしょ しょうひん ひと</sup>作業所の商品を1つ2千円くらいで<sup>にせんえん</sup>セットにして<sup>せつと</sup>販売する<sup>はんばい</sup>ということをやりました。そ  
の「<sup>せつとしょうひん</sup>セット商品」をやろうとなったときに、<sup>かぜききん</sup>ゆめ風基金や<sup>たす</sup>いろんなところから助けてもらったんです。

やはた<sup>やはた ひさいち</sup> ざいげんかくほ  
八幡：被災地ではどうやって<sup>ざいげんかくほ</sup>財源確保をしていたんですか？

いなもと<sup>いなもと じよせいきん しんせい</sup> たいーしゃつ う  
稲本：助成金を申請したり、Tシャツを<sup>う</sup>売ったんです。<sup>きむたく</sup>キムタクが<sup>てれびどらま</sup>テレビドラマで<sup>き</sup>着てくれて、<sup>どっかーん</sup>ドッカーンと  
売<sup>う</sup>れましたね。それから<sup>かくさぎようしょ</sup>各作業所が<sup>どくじ</sup>独自の<sup>たいーしゃつ</sup>Tシャツ<sup>つく</sup>作って<sup>う</sup>売り<sup>はじ</sup>始めましたね。

やはた きふ あつ  
八幡:寄付は集まりましたか？

いなもと あつ さいせいてき さんぶんの いち きふ さんぶんの いち しゃつ ほじよ きんさんぶんのいち  
稲本:すごく集まっていましたよ。財政的には1 /3が寄付、1 /3がTシャツ、補助金1/ 3。

こうへん つづ  
(後編に続く)

せいしきめい ひょうごけん なんぶ じしん しょうがいしゃきゆうえんほんぶ さまざま しょうがいしゃだんたい けっしゅう はんしんかん しょうがいしゃしえん  
※1 正式名は兵庫県南部地震障害者救援本部。様々な障害者団体が結集して阪神間の障害者支援を  
するため1月21日に設立された。

おうえんだん ほりゆーむ すりー(さん)  
応援団からこんにちは VOL.. 3

さいがいじ ちい ちいき たんい まち むら じょうほうしゅうしゅう ひつよう  
災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。そこ  
で、いざ、さいがい はっせい ちいきたんい じょうほうしゅうしゅう だんたい ほしゅう  
災害が発生したときに「地域単位」で情報収集して下さる団体を募集すること  
になりました。それが「ゆめ風応援団」です。

ちばけんいちかわし にんていえぬびーおーほうじんせいかつこんきゅう ほーむれすじりつしえんがんばん かい  
千葉県市川市 認定NPO法人生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会

りじちよう そえだ いちろう  
理事長 副田 一朗

わたし ばぶるほうかい えいきょう ふ つづ ろじょう せいかつしゃ しえん おこな ねんちばけんいちかわし  
私たちはバブル崩壊の影響で増え続ける路上生活者の支援を行うため、1997年千葉県市川市で  
たんじょう ほうじん こりつ か すず にほんしゃかい なか こりつ はたじるし さまざま じぎょう おこな  
誕生した法人です。「孤立化」が進むこの日本社会の中で「孤立させない」を旗印に様々な事業を行い、  
さっこん きょじゅうしえん ちから そそ す しえん ご せいかつしえん みと のうこつ  
昨今は居住支援に力を注ぎ、「住まい」の支援はもちろん、その後の生活支援、さらに看取り、納骨まで  
おこな えんたいしょうしゃ しょう しゃ おお じりつくねん せいかつかいご しゅうろうしえん けいぞくびーがた さぎょうしよ  
も行っています。また支援対象者に障がい者も多く、自立訓練・生活介護、就労支援継続B型の作業所  
うんえい  
も運営しています。

わたし かぜききん で あ ねんまえ たいふう ごう ちば ちよくげき おり やねと  
そんな私たちが「ゆめ風基金」と出会ったのは、3年前に台風19号が千葉を直撃した折です。屋根を飛  
びされる被害は甚大、大規模停電も長期に渡りました。そうした中、南房総市の認知症の方の入所施設、  
しょうがいしゃ ぐるーぷほーむ ていでん だんすい こま れとると きゅうば しの りようしゃ けんこう  
障害者のグループホームが「停電、断水で困っている。レトルトで急場を凌いでいるが、利用者の健康

じょうたい かんが げんかい しえんようせい  
状態を考えると限界にきている」と支援要請があったのです。

たきだしきざい じゅうらい かつどう しよじ きんきゆう かだい しよざいおよびしきん  
炊き出し器材は、従来の活動から所持しているものの、緊急でもあり課題は食材及び資金をどうするか、ということでした。

しかし、かつて東日本大震災の折に支援で連携を図った二つの生協から食材の提供を、「ゆめ風基金」からは資金の提供を受け、炊き出しを実現したのです。電気・ガスがない、水道も出ない中で、屋外で調理し、カレーや豚汁などを作り、施設の方々はもちろん、被災された近隣住民の方々に食事を提供、ひと時の交わりを得ることができました。

被災の中での支援、改めて大切なことは物の提供に留まらず、この社会の中で小さくされた人たちとの結びつきだと思います。「ゆめ風基金」の使命の一つは、ここにあるのではと信じています。

みえけんつし えぬびーおーほうじんび あさぼーと すぎた ひろし  
三重県津市 NPO法人ピアサポートみえ 杉田 宏

ピアサポートみえは、三重県津市を拠点に、どんなに障害が重くても地域の学校でともに学び、ともに生きることをめざして、障害当事者が運営の主体となり、重度障害者の地域生活を支えるための重度訪問介護事業や相談支援事業、サンドウィッチの製造や販売を行う就労継続支援B型支援事業の運営や学校等への講演活動等を行っています。

普段の何気ない日常生活の中でも、自宅に来るはずの介助者が来なかったり、定期点検で駅やアパートのエレベーターが動かないといった事態に遭遇し、その度に不安に感じたり、動揺したりと私たちが障害者の生活は、災害時のみならず、日常の生活が変化した時に、一番に影響を受けやすいと感じています。地震などの災害時には、避難行動一つとっても多くの課題があるように感じています。そのような中で、私たちは今年度、三重県社会福祉士会の方と一緒に逃げ遅れないための事務所のレイアウトを考えた。り、秋ごろには避難訓練を実施することにしていきます。

「電子レンジと冷蔵庫が杉田さんの頭に当たるよ。物が倒れてきて、通路がなくなってしまうよ。ヘルメットはないの？ 非常持ち出し袋はある？ 地震ハザードマップで事務所はどう？」などといった

会話のやり取りのなかで、自分自身の防災に対する意識も変化していることを感じています。仕方がないと諦めるのではなく、災害時にどのような状況に置かれても生きてい、命をつないでいくために、自分ができることは何だろうか、ピアサポートみえとしてやれることは何があるんだろうかと考えるようになりました。応援団への参加もその一環です。災害時という非常事態に遭遇しても、協力し合うことのできるネットワークがあること、平時からつながりを持てること、本当に心強いです。これからもよろしく願います。

## リレーエッセイ「災害と障害者」

「障がい者の経験を次の大災害に活かしたい」

よしだちやうて いくせいかい えひめけんう わじまし だいひやう やまもと かずみ  
吉田町手をつなぐ育成会(愛媛県宇和島市)代表 山本 和美

プロフィール: 障がいのある子どもを育てる親の集まり「吉田町手をつなぐ育成会」と集う場  
「オープンスペースきやっち」代表。2011年～フォトプロジェクト(写真を通して社会とつながる)を実施、  
2022年度のテーマは「カラフル」。宇和島NPOセンター理事。

### 【平成30年7月豪雨 7.7当時のこと】

えひめけんう わじまし よしだちやう おい さんち けんない いちばんはや しちがつ のか よしだなつまつ  
愛媛県宇和島市吉田町は美味しいみかんの産地です。県内で一番早い7月7日の吉田夏祭りが  
おおあめ ちゆうし き わたし しんこく かんが  
大雨のため中止と決まったが、私は深刻には考えていなかった。

しちがつ のか そうちやう ひなん うなが じもとしょうぼうだん こえ め さ しんたい ちてきちやうふくしやう ちやうなん くるま  
7月7日早朝、避難を促す地元消防団の声で目が覚める。身体・知的重複障がいのある長男は、車  
よんじゆぶん しせつ い じたく おっと わたし あず 2さい まご ひなんじよ ちい こ つれて  
で40分ほどの施設に居た。自宅には夫と私、預かっている2歳の孫で、「避難所に小さな子を連れては  
い おっと へんとう  
行けない。」夫はそう返答した。

ふたたびしょうぼうだん よ とき そと み どうろ かわ こ せ お ある だくりゆう  
再び消防団が寄ってくれた時、外を見ると道路は川のように、子どもを背負っては歩けないほどの濁流  
ひなん へんた ねんた なる いえ ど ま でいりゆう ふ こ けだか  
だった。避難しなかったことを後悔する間にも、100年経つ古い家の土間に泥流が噴き込んだ。床高が  
ごじゆっせんち ゆかしたしんすい すうけん む いえ なか たう あんばい  
50cmあって床下浸水ですんだが、数件向こうは、家の中で田植えができそうな塩梅だった。

よしだちょう かしょ しゃめん くず だいきぼ どしやさいがい たすうはっせい わたし す うみぞい ちいき  
吉田町では、2,271か所の斜面が崩れ、大規模な土砂災害が多数発生した。私の住む海沿いの地域  
は、急傾斜のみかん山、僅かな平地に人家、すぐ海という地形だ。自宅から近くで大規模崩落した土砂  
は、下の農業用ため池を埋め尽くした。隣の集落では、崩落した土砂がみかんの樹も建物も海まで  
押し流し、人的被害が出ている。

## 【目の前しか理解してない】

どしやくず とんねる ほうらく しゅうらくない ふた ちい はし お いた どしや どうろ  
土砂崩れでトンネルが崩落し、集落内の二つの小さな橋は落ちた。至るところで土砂が道路をふさぎ、  
ちいき こりつ ろかた くず どうろ けいゆ じえいたい ふつきゅう きさい ぶっし ひと はい  
地域は孤立した。かろうじて路肩が崩れた道路を経由して、自衛隊や復旧のための機材・物資・人が入っ  
た。

らいふらいん よしだじょうすいじょう どせきりゅう かいめつてき だんすい ちょうきかんづつ よる こうしつど あつ  
ライフラインの吉田浄水場は土石流により壊滅的で断水は長期間続いた。7.7の夜は高湿度の暑さと  
ま くらやみ じたく に だ よくじつでんき ふつきゅう せいかつ つづ テレビ ネットなど情報  
真っ暗闇で自宅から逃げ出したかったが、翌日電気が復旧して生活は続けられた。TV・ネットなど情報  
手段は確保されたが、当時の私は歩いて行ける範囲しか理解してなかった。何が起こって、何ができな  
いのか、今はどう進んでいるか。SNSやネットの情報があっても、実感に理解が追いつかない。自分た  
ちが被災者だという自覚すら無く、気持ちと行動が一致するには半年、1年と時間が必要だった。

## 【拠点の復旧と活動の継続】

かせんはんらん ゆかうえしんすい かつどうきよてん かいいん ぼらんていあ かたづ いっしゅうかんご  
河川氾濫により床上浸水した活動拠点を、会員とボランティアで片付けたのは1週間後だった。ありが  
たいことに高圧洗浄機と水を携え、愛南町のNPOなんぐん市場の強力な助っ人2名が来てくださった。  
かつどう じむびひん たいはん はいき りさいしやうめいしよ しゃしん ようい いだんたい つか しょう  
活動や事務備品の大半は廃棄した。罹災証明書のために写真を用意しても、任意団体が使えたり、障  
がいに特化した制度は見つけられなかった。

どろどろ つちぼりり なか ねん はじ ふおと ぶる じえくと しゃしん とお しゃかい おこな  
泥々と土埃の中でも、2011年から始めたフォトプロジェクト(写真を通して社会とつながる)は行った。  
てーま 「つながる」で作品募集し、被災地を巡る写真展を吉田町→大洲市→野村町で開催した。

## 【ゆめ風基金との出会い】

そんな中「ゆめ風基金」の支援金情報はありがたかった。障がい者家庭の被災状況を手分けして

確認、支援金の対象をリストアップした。行政は未曾有の災害対応に手一杯だったが、書類手続き等を福祉課が受け持ってくれた。

拠点の建物は解体が決まった。「ゆめ風基金」救済金を団体としても申請し、移転先で重度身体障がいのメンバーが安心して活動できる屋内マットを整備した。

## 【障がい者の経験を次の大災害に活かす】

平成30年7月豪雨の支援活動を契機に「宇和島NPOセンター」が2019年に設立され、私も障がい分野から参加した。現在は災害支援・防災教育・産業振興を柱に、中間支援組織として地域のネットワーク構築とNPO団体の支援を進めている。

発災後、私は会員の安否確認に手間取った。日頃の関係性もあるが、緊急時、親の会からの電話・メール対応は後回しになる。平時から簡単にやり取りできる仕組みに慣れておけば、支援物資や支援金情報も迅速に届けられる。また、私は小さな子を連れて避難所に行くのをためらったが、障がい者にも同様な悩みはある。障がい者の経験と視点は、災害支援に活かさないだろうか。宇和島市のNPO団体で共有して、次なる大災害や地域の課題解決へのヒントが生まれればと願う。

## カンパを頂いた団体 2022/4-2022/6

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。

本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたら申し訳ありません。

4/6 豊能障害者労働センター(箕面市)

4/8 地域たすけあいネットワーク(三条市)、大瀧合金(川口市)

4/12 聖ベネディクト女子修道院(室蘭市)

4/13 大杉の里(上越市)、そうそうの杜(大阪市)

- 4/18 じりつせいかつせんたーまつやままつやまし  
自立生活センター松山(松山市)
- 4/20 こーひーたいむにほんまつし  
コーヒータイム(二本松市)
- 4/25 やおしまいんどおかやまし  
ゆうとおん(八尾市)、マインドこころ(岡山市)
- 4/26 のうちいきねつとわーくふくいし  
農と地域のふれあいネットワーク(福井市)
- 4/27 かなみもりとめし  
奏海の杜(登米市)
- 5/2 ならけん  
ひまわり(奈良県)
- 5/6 さとごとうし  
みみらくの里(五島市)
- 5/9 にしきほいくえんとめし  
錦保育園(登米市)
- 5/10 えーびーしーけんきゅうしよきたきゅうしゅうし  
ABC研究所(北九州市)
- 5/11 きしわだし  
いこらー(岸和田市)
- 5/18 るびなすかいかごしまけん  
ルピナス会(鹿児島県)
- 5/20 にほんだうんしょうきょうかいとしまく  
日本ダウン症協会(豊島区)
- 5/25 せたがやこうりゅうかいせたがやく  
世田谷交流会(世田谷区)
- 5/27 はまつきょうどうがくしゃさきはまつし  
浜松協働学舎を支える会(浜松市)
- 5/30 たなべみつびしせいやくろうどうくみあいおおさかしじょうざいじながさきけん  
田辺三菱製薬労働組合(大阪市)、常在寺(長崎県)
- 6/2 じりつせいかつせんたーひがしやまとひがしやまとしみきふくしかいひがしやまとし  
自立生活センター東大和(東大和市)、幹福祉会(東大和市)
- 6/3 むぎかいせんだいししやせんだいし  
麦の会(仙台市)、ありのまま舎(仙台市)
- 6/10 にほんせいかつきょうどうくみあいれんごうかいきょうどうれんまつやまし  
日本生活協同組合連合会、共同連えひめ(松山市)
- 6/9 かいとよなかし  
あじさいの会(豊中市)
- 6/13 やっどもみやざきしげんやいるまぐん  
YAH!DOみやざき(宮崎市)、玄家(入間郡)
- 6/15 じりつせいかつせんたーいるかぎのわんし  
自立生活センターイルカ(宜野湾市)

じむきょく うご ねん がつ がつ うご しょうかい  
事務局の動き 2022年4月から6月の動きをご紹介します。

まいしゅうげつようび じむきょくかいぎ  
毎週月曜日 事務局会議

4月5日 さぽーと ぶいきねん さっし う あ  
サポートV 記念冊子打ち合わせ

4月7日/5月11日 さいがいじ れんけい かんが ぜんこく ふおーらむ う あ  
災害時の連携を考える全国フォーラム打ち合わせ

4月13日 びーしーびー じぎょうけいぞくけいかく い べん と う あ  
BCP(事業継続計画)イベント打ち合わせ

4月18日/5月23日/6月15日 おおさか さいがいね っ と わ ー く おーえすえぬ せわ やく かいぎ  
おおさか災害ネットワーク(OSN)世話役会議

4月27日 つうしん ごうへんしゅうかいぎ  
通信99号編集会議

4月27日/5月25日/6月22日 びーしーびーけんきゅうかい  
BCP研究会

4月28日 た だんたいびーしーびーさくせい う  
他団体BCP 作成打合せ

5月5日 げいにんきゅうじょう かいさん か  
芸人九条の会参加

5月13日 さいがいじ れんけい かんが ぜんこくふ おーらむ しゅうつえん  
災害時の連携を考える全国フォーラム出演

5月17日 かぜききんりじかい  
ゆめ風基金理事会

5月18日/6月10日 おーえすえぬようはいりよしゃぶ かい う あ  
OSN要配慮者部会打ち合わせ

5月26日 6/4 びーしーびーい べん と む こうしゅう  
BCPイベントに向けたリーダー講習

5月27日/6月2日 かぜききんほーむべーじしゅうせい う あ  
ゆめ風基金HP修正打ち合わせ

6月2日 とよなかえーぜつと こうえん  
豊中AZらんど講演

6月4日 びーしーびーい べん と  
BCPイベント

6月13日 ちゅうがくせいぶろじえくと くにしまちゅうがく  
中学生プロジェクト(柴島中学)

6月15日 にしあわじしょうがっこうこうえん  
西淡路小学校講演

6月15日/16日 しんさいたいさくぎじゅつてんさんか  
震災対策技術展参加

6月17日 いばらきししのめちゅうがくこうえん  
茨木市東雲中学講演

6月20日 つうしんひやくごうへんしゅうかいぎ  
通信100号編集会議

6月21日/22日 つうしんはっそう  
通信発送

6月21日 <sup>おおさかふ ふしやきょう おえすえぬさんしゃれんけいかいぎ</sup> 大阪府、府社協、OSN三者連携会議

6月25日 <sup>こくさいしょうがいしゃねんとよなかこうえん</sup> 国際障害者年豊中講演

6月27日 <sup>かんさいしょうがいしゃていきかんこうぶつきょうかいそうかいさんか</sup> 関西障害者定期刊行物協会総会参加

6月29日 <sup>じえいほあーど にんていえぬびーおーほうじんぜんこくさいがいぼらんていあしえんだんたいねっとわーく うあ</sup> JVOAD(認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)との打ち合わせ

6月29日 <sup>ほじていぶせいかつぶんかこうりゅうさいじっこういんかい</sup> ポジティブ生活文化交流祭実行委員会

## 11p 会計別紙

### 12p <sup>かぜ かぜ ろっこう かくち かぜ</sup> そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2022.4-6

▼ <sup>かぜ にほん りょうしん ふくおかし</sup> ゆめ風は日本の良心です(福岡市)

▼ <sup>せかいじんるい へいわ にほん へいわ たかつきし</sup> 世界人類が平和でありますように、日本が平和でありますように(高槻市)

▼ <sup>しぜん さいがい う いひと て さいがい は こまつまし</sup> 自然災害は受け入れられますが、人の手による災害は歯がゆいですね(小松島市)

▼ <sup>はら た こと げんき ほっかいどうきょうわちょう</sup> なんだか腹の立つ事ばかりですが、元気にいきましょう(北海道共和町)

▼ <sup>かた せわ じぶん すこ やく た おも みなみまつらぐん</sup> いろいろな方からお世話になっています。自分も少しでも役に立てたらと思います(南松浦郡)

▼ <sup>せかい しょうがいしゃ こと き やすし</sup> 世界の障害者の事が気になります(野洲市)

▼ <sup>かぜ おく くだ なんばー すうじ おどろ かんしゃ きたみし</sup> ずっと「ゆめ風だより」を送って下さりありがとうございます。NO98の数字に驚きと感謝です(北見市)

▼ <sup>まきぐち ゆうたい とだ しゅうにん いわ きふ はちおうし</sup> 牧口さんのご勇退と戸田さんのご就任をお祝いしての寄付です(八王子市)

▼ <sup>こうじのうきのうしょうがい こ ごじゅうだい おや かい じぞく いの ひんじゃ いっとう</sup> 高次脳機能障害の子(50代)をもつ親として、会の持続を祈り、ささやかですが貧者の一灯を  
<sup>ささ よこはまし</sup> 捧げます(横浜市)

▼ <sup>ころな うおう さおう あいだ みなさま けいぞくりよく かんしゃ しぶやく</sup> コロナに右往左往して、すっかり間があいてしまいました。皆様の継続力に感謝です(渋谷区)

▼ <sup>としより きも すこ へいわ いの よこはまし</sup> 年寄の気持ちです。少しばかりですが、よろしく。平和を祈ります(横浜市)

▼ <sup>ちい ちから だれ たす こしがやし</sup> 小さい力も誰かの助けになりますように!!(越谷市)

▼ <sup>にしにほんこうう たいへんたす かつどう おうえん くらしきし</sup> 西日本豪雨では大変助けられました。活動の応援をしています(倉敷市)

▼いつもありがとうございます。さまざまな戦、やめましょうと叫びたい！！(金沢市)

▼少しですが安心して暮らせるように使って下さい(志野郡)

▼牧口さんご苦労様。お若い時、美しい色の松葉杖を見せてもらった時、これや！と思ったことを思い出します(長岡京市)

▼多くの絆が感謝できるスタッフのお働きありがとうございます(千葉市)

▼京都府南部震源の地震が続くので不安です(豊中市)

▼「東北」へ(清瀬市)

▼夫が亡くなり、本人の遺志により寄付します(江戸川区)

▼わずかですが、子どもたちのために！応援しています(豊中市)

▼コロナコロナで閉じこもった日々を過ごしていましたら、今度はウクライナが大変な状況になり先が見えなくなっています。どうぞ、明るい光が世界に差し込みます様、祈るのみです(寝屋川市)

▼社会の正常化を祈りつつ、少しですが応援させていただきます(沼津市)

▼暑い夏です！！みんな元気でね(吹田市)

▼最近スーパーなどで品切れが目立ちます。食料も手に入らないかも(枚方市)

▼後期高齢者になり不安な事もありますが、まだ元気で生活出来る喜びを感じています。増額出来ずすみません(太田市)

▼「無事之名馬也」です。息切れしないようにしぶとくやっていきましょう(福山市)

▼ため息ばかりの世の中、笑顔は半分やけ(横浜市)

▼今年は酷暑で大変です、どうぞスタッフの皆さんご自愛下さい(足立区)

▼日々淡々と和顔愛語で♡(日野市)

▼いつまで送金出来るかわかりませんが送金します。大切にして下さい(春日井市)

へんしゅうこうき  
編集後記

★豪雨が続いていますが、皆様、お住まいの地域は大丈夫でしたか？ゆめ風にもいくつか情報は寄せられています。支援には至っていません。ゆめ風も範囲が広く情報収集に苦勞しています。ゆめ風応援団となつて被災地の情報を寄せてくださる団体を募集しています。(八幡)

ゆめ風ネットワーク連絡先 FAXは 06-6321-5662 まで

さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 新潟 0252-32-7522 三條 0256-34-2448 J D S (東京) 03-6907-1824 東大和 042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 千葉 047-485-1245 埼玉 048-738-4593 上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 愛知 052-841-9888 名古屋 052-745-1001 岐阜 058-388-1864 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-52-6464 三重 059-202-5782 滋賀 077-543-2844 京都 0774-93-3277 J C I L (京都) 075-671-8484 奈良 0745-42-2919 和歌山 0737-82-4060 伊丹 072-783-4991 ひょうご 078-642-0142 はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533 まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365 徳島 088-602-1003 岡山 0866-97-0206 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9551 やまぐち 0833-76-0550 福岡 094-962-6003 大分 097-597-5315 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 諫早 0957-28-3800 さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329 みやざき 0985-31-4800 かがしま 0994-63-8855 沖縄 098-958-2912